

## 令和3年度京都府立盲学校第3回学校運営協議会

日時 令和4年2月17日(木) 10:00～

場所 京都府立盲学校花ノ坊校地 多目的教室

\*当日は、まん延防止等重点措置が延長されたことに伴い、書面開催に変更した。

### 1 報告

#### ①高等部進路状況について

過去10年間の高等部卒業生徒の進路状況について報告

#### ②令和3年度学校評価アンケート結果について

生徒向けアンケート、保護者向けアンケートの結果を中心に報告

#### ③令和3年度学校経営計画（実施段階）について

別掲のとおり報告

### 2 【熟議】「視覚に障害のある幼児児童生徒の学びの伴走者としての盲学校」

豊かな学びを支えるために、本年度の教育活動の総括から課題解決を探る

#### ・主な意見(各委員)

##### (1) 学校経営目標

- ・創立150周年に向けての学校づくりを目標に、中期・短期の学校経営目標を掲げて、今後も成果と課題を繰り返して一歩ずつ進んで行くことが必要である。
- ・学校の方針として、教職員は、日々、一人一人の幼児児童生徒に向き合い、学力や生活力・社会で生きていくための力をつけさせたいという気持ちで取り組んでおられる。コロナ渦で教員が少しでもいい授業にしようと苦心されていることも伝わって来る。
- ・悩みを持っている生徒が安心して自分の気持ちを話せる教員がいることは大切なことに思うが、教員に対してもスキルや話をじっくり聞ける体制も確保していかなければならない。
- ・保護者との対話や教職員間のコミュニケーションをしっかりととり、教職員にとっても、視覚障害について学べてよかった、この学校に勤めることの意義ややりがいを感じるという気持ちで業務に取り組んで欲しい。

##### (2) 教育活動全般

- ・コロナで不自由の中、タブレットを授業に導入して、弱視児童生徒が拡大機能を使用して、検索など効率化して活用出来たり、自宅でも宿題をやり易くなってきたりしていると思う。また、オンラインで、他校と遠隔授業や地域交流が可能になり、教員も研修を実施しており、これからも期待できる。
- ・早期からの交流の場は、保護者にとってたいへん心強いものとなり、子ども理解を深め、前向きな子育ての意欲にもつながると考える。今後も力を入れて取り組んでいただきたい。
- ・盲学校の幼児児童生徒数減少の一因として、弱視幼児児童生徒が地域で学ぶケースが増えている。ロービジョンネットワークを活用し、眼科医をはじめ、関係機関との連携を一層深めることで、盲学校の果たすべき役割が更に広がって行くことを期待している。
- ・一人一台端末といわれているが、地域で学んでいる子供たちへのICT教育は適切に行われているのか、とても心配である。今後、ICT技術は、視覚障害者にとって有効なツールとなる。視覚支援センターを中心に盲学校として関わることがあるのではないかと。特に、視覚に障害のある教員(当事者)が関わることで、より充実した地域支援ができるのではないかと。

### (3) 進路指導

- ・「本年度学校経営の重点」の3では、「進路指導の充実」で、盲学校卒業後の進学・就労等のモデルケースの整理とあるが、どういうケースがモデルケースといえるのか、私自身が理解できていないため、整理内容を知りたい。
- ・今まで以上に地域を拡大して新たに福祉作業所や実習先を開拓したり、また、コロナで実習にも行けなかったりと大変だったと思う。教員の努力に敬意を表したい。新たな作業所や作業活動などを、保護者に情報提供を行い、保護者も希望出来る範囲が広がったと思う。
- ・社会情勢の変化にも対応できる人間力は、社会の中で強く生き抜く為には必要。平均寿命の推移をみると、時代はひとつの職業だけで終わるのではなく、いろいろな職種をいつでも選択できる時代に来ている。時間をかけて自分にあった業種、やりたい事をみつけてもいいんだという教育も必要と思われる。
- ・卒業後、いつでも相談できる一番の場所が盲学校である。だからこそ生徒との向き合い方が大切である。どれだけ同じ話でも、何回も話し合えるかが大事だと思う。

### (4) 研究研修

- ・オンデマンドでの実施など、工夫しながら授業改善に向けた授業研究が行われている点の評価したい。授業改善に向けた授業公開及び研究授業等の積み重ねが教員の授業力、幼児児童生徒の学びの理解等、学校全体の教育の質を向上させると考える。今後も、工夫を重ねながら授業研究に取り組んでいっていただきたい。
- ・他の学校から赴任して来た教員や初めて教員として採用され盲学校に配属となった教員に、たとえ2週間でも授業を持たず、視覚障害についての研修（施設内での体験や視覚障害当事者との対話や活動に参加するなど）の期間を設けるなどというのはできないものか。  
その他、人権意識の向上、盲学校教員としての専門性の一層の向上を望む声を寄せていただきました。

### (5) 生徒指導・安全教育

- ・消防署と連携して防災訓練を行っていて、煙ハウス体験と火災の訓練は評価できるが、今後、南海トラフの巨大地震災害が予想されている。特別警報などが発令されても、1時間以上通学にかかる遠方の保護者は、車の渋滞、道路状況などで迎えにも来られない事も予想される。状況判断は難しい事も予想されるが、生徒の安全を第一に、学校に留まる、数日間待機せざるを得ない場合などもあると思う。様々な危機を想定したマニュアル作成と保護者への速やかな情報提供が必要である。

### (6) ICT教育・情報管理

- ・教職員を対象としたICT研修は、ICT活用に対する教職員の意識の違いや得手・不得手感もあると考えるが、教員の意識や活用レベルに合わせた研修を今後も継続して行っていただきたい。また、ICT機器を使用することが目的とならないよう留意しつつ、ICT機器を活用してどのような教育的効果を求めるのかを明確にした指導が求められると考える。ICT機器の活用によって、幼児児童生徒の学びの意識が高まり、また理解が深まり、広がることを期待したい。

## 3 高等部作業学習製作品の活用策について

製作方法や作業工程に関心を持っていただきました。

交流及び共同学習、社会参加に取り組む校外学習として、近隣の支援学校や福祉施設・商店と連携し、購入物の入れ物として提供する等の提案をいただきました。

